

■わいわい広場 開設状況 (令和元年6月末現在 127校)

区	実施校	開設年度	開設回数	雨天時
東 (25校)	香椎浜	15年度	週3回	中止
	箱崎	18年度	週3回	中止
	香椎東	18年度	週3回	体育館
	香陵	22年度	週3回	中止
	千早	23年度	週3回	中止
	千早西	23年度	週3回	中止
	香椎下原	23年度	週3回	中止
	香椎	24年度	週3回	中止
	和白	24年度	週3回	中止
	三苦	24年度	週3回	中止
	松島	25年度	週3回	中止
	香住丘	25年度	週3回	中止
	八田	25年度	週3回	中止
	照葉	26年度	週3回	中止
	若宮	26年度	週3回	中止
	和白東	28年度	週3回	中止
	青葉	28年度	週3回	中止
	名島	29年度	週3回	中止
	西戸崎	29年度	週3回	中止
	奈多	29年度	週3回	中止
	城浜	30年度	週3回	中止
	多々良	30年度	週3回	中止
	筥松	30年度	週3回	中止
	馬出	30年度	週3回	中止
	照葉北	31年度	週3回	中止
博多 (16校)	東光	16年度	週3回	多目的室等
	席田	21年度	週3回	体育館
	三筑	22年度	週3回	中止
	板付	23年度	週3回	体育館（火のみ）
	那珂南	23年度	週3回	中止
	春住	23年度	週3回	中止
	東月隈	24年度	週3回	中止
	東吉塚	24年度	週3回	中止
	東住吉	25年度	週3回	中止
	那珂	26年度	週3回	中止
	板付北	27年度	週3回	中止
	弥生	28年度	週3回	中止
	月隈	29年度	週3回	中止
	堅粕	30年度	週3回	中止
	住吉	30年度	週1回	体育館等
	吉塚	30年度	週3回	中止
中央 (11校)	南当仁	15年度	週3回	中止
	草ヶ江	21年度	週3回	中止
	当仁	22年度	週3回	中止
	平尾	23年度	週3回	体育館
	福浜	23年度	週3回	体育館等
	小笹	23年度	週3回	中止
	警固	24年度	週3回	中止
	高宮	26年度	週2回	中止
	春吉	29年度	週3回	体育館
	赤坂	30年度	週3回	中止
	笹丘	30年度	週3回	中止
南 (24校)	若久	17年度	週3～5回	体育館等
	弥永	21年度	週3回	中止
	野多目	21年度	週3回	中止
	弥永西	22年度	週3回	中止
	大楠	23年度	週3回	中止
	老司	23年度	週3回	中止
	長住	24年度	週3回	中止
	柏原	24年度	週3回	中止
	玉川	25年度	週3回	中止
	東若久	25年度	週3回	中止
	西長住	25年度	週3回	中止
	日佐	25年度	週3回	中止
	宮竹	26年度	週3回	中止
	花畑	26年度	週3回	中止
	東花畑	27年度	週4回	中止
	高木	27年度	週3回	中止
	塩原	27年度	週3回	中止
	長丘	28年度	週3回	中止
	筑紫丘	28年度	週3回	中止
	大池	28年度	週3回	中止
	西花畑	29年度	週3回	中止
	鶴田	29年度	週3回	中止
	三宅	30年度	週3回	中止
	横手	30年度	週3回	中止
城南 (9校)	鳥飼	16年度	週3回	体育館等
	別府	22年度	週3回	中止
	田島	23年度	週3回	中止
	城南	23年度	週3回	体育館（月のみ）
	堤	23年度	週3回	体育館等
	七隈	24年度	週2回	体育館（火のみ）
	長尾	25年度	週2回	中止
	南片江	25年度	週3回	中止
	片江	26年度	週3回	体育館（火のみ）
早良 (23校)	百道	15年度	週3回	中止
	有田	18年度	週3回	体育館
	原北	21年度	週3回	中止
	西新	22年度	週3回	中止
	四箇田	23年度	週3回	中止
	原	23年度	週3回	中止
	高取	23年度	週3回	中止
	室見	24年度	週3回	中止
	百道浜	24年度	週3回	中止
	田隈	24年度	週3回	中止
	賀茂	24年度	週3回	中止
	小田部	24年度	週3回	中止
	野芥	25年度	週3回	中止
	原西	25年度	週3回	中止
	有住	26年度	週3回	中止
	大原	26年度	週3回	中止
	飯原	26年度	週3回	中止
	田村	27年度	週3回	中止
	飯倉中央	27年度	週3回	中止
	入部	27年度	週3回	中止
	飯倉	28年度	週3回	中止
	早良	28年度	週3回	体育館（火のみ）
	内野	29年度	週3回	中止
西 (19校)	金武	16年度	週3回	中止
	愛宕	21年度	週3回	中止
	壱岐南	22年度	週3回	中止
	姪浜	23年度	週3回	中止
	西陵	23年度	週3回	ランチルーム（火のみ）
	姪北	23年度	週3回	体育館（火のみ）
	今宿	23年度	週3回	中止
	城原	24年度	週3回	家庭科室（火のみ）
	下山門	24年度	週3回	中止
	福重	24年度	週4回	わいわい事務室
	玄洋	25年度	週3回	中止
	周船寺	26年度	週3回	中止
	石丸	26年度	週3回	体育館等
	壱岐	27年度	週3回	中止
	内浜	27年度	週3回	中止
	壱岐東	27年度	週3回	中止
	愛宕浜	27年度	週3回	中止
	西都	29年度	週3回	中止
	今津	30年度	週3回	中止

53校	麻生教育サービス株式会社
25校	株式会社テノ. サポート
22校	特定非営利活動法人ワーカーズコープ
6校	特定非営利活動法人そだちの庭
19校	リーフラス株式会社
2校	地域型

127校

【わいわい広場統計データ】

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減 (30年度-29年度)
実施校区数	86	97	105	114	126	12
新規開設	12	11	8	9	12	3
開催日数	6,693	7,208	8,383	9,427	10,071	644
1校平均開催日数	78	74	80	83	80	△ 3
登録児童総数	10,452	12,429	13,819	15,711	18,338	2,627
1校平均登録数	122	128	132	138	146	8
1校平均登録率	20%	21%	22%	23%	24%	1%
1校平均登録率(低学年)	33%	34%	35%	37%	40%	3%
延べ参加人数	179,238	208,233	242,788	279,997	317,590	37,593
1回平均参加数	27	29	29	30	32	2
1回平均参加率(全生徒)	4%	5%	5%	5%	5%	-
補助員登録数	425	466	541	631	890	259
1校平均登録数	5	5	5	6	7	1
見守りSP登録数	2,723	3,139	3,350	3,494	3,435	△ 59
登録率	26%	25%	24%	22%	19%	△ 3
1校平均登録数	32	32	32	31	27	△ 4

※H30年度は、猛暑時の中止基準を設定

■中止基準

- ・福岡市防災メールの定時配信(7時30分頃)で、12時または15時の時間帯の熱中症情報の暑さ指数が「危険」と配信された場合(途中で暑さ指数が引き上げられた場合の12時半の配信も同様)
- ・猛暑により当日の学校の校庭使用等が中止となった場合

■平成30年度研修実施状況

研修名	実施日	参加者数	内容
わいわい先生研修	H30.4.9	92	○わいわい広場の経緯・現状・今後の取り組みについて説明 ○「遊び場での子どもへのまなざし」 ・子どものトラブル・ケンカの場面で・・・ ・子どもの遊びを引き出す！？
	H30.5～11	172	○他校わいわい広場への実地研修(希望者のみ)
	H30.9.4 9.13	20	○新規校開設時期に合わせて実施 ○新任わいわい先生のほか、新任の補助員や既存校のわいわい先生、PWも参加 ○「わいわい広場事業概要等」 「わいわい広場の意義及び遊びの効用について」 「遊び場におけるリスクマネジメント」
	H30.12	105	○わいわい先生同士の意見交換 「遊びを引き出す工夫、遊びに関するスキルアップ等」※別紙参照
補助員研修	H30.5～H31.3	47	○他校わいわい広場への実地研修(希望者のみ)
	H30.9.4 9.13	12	○新規校開設時期に合わせて実施 ○新任わいわい先生のほか、新任の補助員や既存校のわいわい先生、PWも参加 ○「わいわい広場事業概要等」 「わいわい広場の意義及び遊びの効用について」 「遊び場におけるリスクマネジメント」
	H30.10.2 10.3	231	「わいわい広場の現状等について」 「わいわい広場が目指す遊び場について」
PW(プレイワーカー)研修	H30.3～4	40	○継続登録者研修 「わいわい広場の現状等について」 「PWの活動について」
	H30.4～8	11	○登録希望者に対する個別研修 「わいわい広場事業説明」 「わいわい広場の現状等について」 「わいわい広場でのPWの関わりについて」 ※登録希望があった時に随時実施
	H30.7.12 9.3 11.15	46	○プレイワーカー基礎講座 PW登録者を対象に、わいわい広場のPWとして必要な基本的スキルの習得を図る研修 「こどもの自主性をうながす関わり方」 「こどもの主体性を発揮できる環境づくり」 「遊び場でのリスクへの対処等」
	H31.1	14	○プレイワーカーフォローアップ研修 PW、学生PW育成講座の受講者等がそれぞれの活動を共有し、遊びの支援者としての意識を高め、その活性化を図る(情報共有、意見交換)
留守家庭主任支援員研修	H30.5.13	281	○「留守家庭子ども会とわいわい広場の連携について」
■わいわい広場の充実に向けた意見交換会 日時:H30.5.28 内容:わいわい広場の現状や今後の充実に向けた意見交換 出席者:運営業務受託者、放課後事業推進委員会委員、放課後こども育成課(コーディネーターを含む)			
■プレイワーカー養成講座 日時:H30.9.1, 9.8, 9.15, 9.22, 9.29 内容:「わいわい広場」や地域における子どもの遊びの支援者を養成するため、必要な基本的知識及び技術を習得する研修 参加者:36人			

■令和元年度研修実施状況

研修名	実施日	参加者数	内容
わいわい先生研修	H31.4.10	112	○「子どもとの関わりについて各テーマごとに意見交換」 ・ものを使っても片づけない、ケンカの対処 ・子どもからの暴言、他のこと交わらない子への関わり ・落ち着きなく動き回る子どもへの対応、子どもが飽きっぽい 「休日わいわい広場実施について」 「わいわい広場での工夫」 ※別紙参照
	H31.4～R2.3	30 (R1.5末)	○他校わいわい広場への実地研修(希望者のみ)
	R1.9	-	○新規校開設時期に合わせて実施 ○新任わいわい先生のほか、新任の補助員や既存校のわいわい先生、PWも参加 ○「わいわい広場事業概要等説明」 「わいわい広場の意義及び遊びの効用について」 「遊び場におけるリスクマネジメント」
	R1.12	-	○わいわい先生同士の意見交換
補助員研修	H31.4～R2.3	14 (R1.5末)	○他校わいわい広場への実地研修(希望者のみ)
	R1.9	-	○新規校開設時期に合わせて実施 ○新任わいわい先生のほか、新任の補助員や既存校のわいわい先生、PWも参加 ○「わいわい広場事業概要等説明」 「わいわい広場の意義及び遊びの効用について」 「遊び場におけるリスクマネジメント」
	R1.10	-	○「わいわい広場の現状等について」 「遊び場におけるリスクマネジメント」
PW(プレイワーカー)研修	H31.4	38	○継続登録者研修 「わいわい広場の現状等について」 「PWの活動について」
	H31.4～R2.3	8 (R1.5末)	○登録希望者に対する個別研修 「わいわい広場事業説明」 「わいわい広場の現状等について」 「わいわい広場でのPWの関わりについて」 ※登録希望があった時に随時実施
	R1.10頃	-	○プレイワーカー基礎講座 PW新規登録者を対象に、わいわい広場のPWとして必要な基本的スキルの習得を図る研修
	R1.10頃 R2.2頃	-	○プレイワーカーフォローアップ研修 PW、学生PW育成講座、プレイワーク研修会の受講者等がそれぞれの活動を共有し、遊びの支援者としての意識を高め、その活性化を図る研修
留守家庭 主任支援員研修	R1.5.12	275	○「留守家庭子ども会とわいわい広場の連携について」
	R1.6.30	277	○「留守家庭子ども会とわいわい広場の雨天時の連携等について」
■プレイワーク研修講座 日時: R1.6.9, 6.15, 6.23, 7.14, 7.28 内容: 子どもの育ちに欠かせない遊びへの大人の関わりについて、理解を深め支えていくために、 基礎知識や技術を学べる講座 参加者: 約50人			

平成30年度

第2回わいわい先生研修（平成30年12月26日）

～当日の意見情報共有～

テーマ①：遊びを引き出す工夫

○遊びについて

- ・砂場遊びは児童の遊びを広げることができる

○何をしたらいいかわからない児童についての対応

- ・わいわい先生の周りにずっとくっついていて児童がいる場合は、その他の児童のグループと混ざることができるように誘導する。
- ・他の児童に誘ってもらっている。
- ・何をしたいか聞くようにしている。誰に声をかけてもいいよと声かけをしている。

○わいわい先生や補助員を独り占めしたがる児童についての対応

- ・気がすむまで一緒にいさせている。
- ・複数の児童が同時に関わりを求めてきた時は、ジャンケンで順番を決めて対応するなど、児童が納得するようにしている。
- ・リーダー的な児童に声かけをお願いしている。
- ・月に1回、全員で遊ぶ日を決めている。

○その他

- ・研修時に感じる気持ちを忘れてはいけない。教科書はないので、工夫や問いかけにより（自分自身？現場スタッフ？子ども達？）アイデアは生まれる。
- ・大人がルールを決めない。子どもたちで決めさせる。

テーマ②：遊びに関するスキルアップ

○手作り遊具の良さ

わいわい先生が遊具を手作りすると、子ども達も「先生がこれを作ったの？」と関心を持ち、工夫して遊ぶことにつながったり、片づけも一緒に手伝ってくれるようになったり、物を大事にしてくれるようになる。

○固定遊具の工夫

固定遊具を活用して遊びの工夫ができる。

→鉄棒などに輪ゴムを活用して紙飛行機を飛びやすい工夫をする、など。

片づける時に輪ゴムを外すなど、遊具の工夫には「撤去する」という作業が出ることも忘れないように。

テーマ③：普及・啓発

○普及啓発について

- ・新 1 年生保護者説明会の活用
→保護者に向けての理解を深めることが大事
- ・わいわい便りの活用
→内容を工夫し、毎月全児童に配布する
- ・普段のわいわい広場を見せる。普段のわいわい広場の充実
→わいわい広場の利用者が楽しく遊んでいることが一番の普及活動
- ・留守家庭子ども会との連携
→W登録の推進（W登録の子どもたちがわいわいを楽しいと実感）
→留守家庭子ども会スタッフとの情報共有や日頃のコミュニケーション
- ・地域との連携
→学校バザーでのPR、公民館との連携イベント

○何をやっていいかわからない。

- ・イベント実施に向けて精神的にも物理的にも負担が大きい。
→プレイワーカーに相談し、プレイワーカーが得意な分野で企画事業を立案する。
→留守家庭子ども会の児童が参加しやすい日程調整を行う。
* イベントを実施してたくさん人が集まっても、未登録者が登録する割合は少ない。
* 何をもって成功というのか不安。
* イベント（企画事業等）がわいわい広場の普及啓発につながっているのか疑問。

○高学年の利用者（登録者）数の少ないことについて

- * 高学年を取り込むことが難しい。
→わいわい広場経験者であれば、登録していなくても低学年の子と楽しそうに遊んだりしている。

○登録人数（参加人数）の増減について、わいわい先生は気になるかどうか。

- * 人数が増えたほうがいいのはわかるが、メリットデメリットがある。
→（参加人数が多い） 子どもたちとのコミュニケーションが希薄になる。
ケガなどが多くなる。
わいわい先生の仕事が増える。
→（参加人数が少ない） 子どもたちとのコミュニケーションが増える。
一人一人に目が行き届く。
わいわい広場のにぎわいに欠ける

テーマ④：困った子への対応

○気に入らないことがあったら「叩いたり」、自分が気に入ったら「とったり」する子

- ・担任に日頃の様子を聞く。コーディネーターに伝えて学校に相談する。
- ・保護者に実態を伝え、わいわい広場での児童の様子を見に来てもらってはどうか。
- ・その子からちょっかいを出された子が、来なくならないように手立てを打つ必要がある。
- ・対応に困る児童と信頼関係を構築するために1対1で遊んだり、丁寧に対応したりしたところ、その児童も落ち着いてきた。
- ・怒るのではなく、黙って傍に行き、いいところがあったらしっかり認める。
→子どもの自己肯定感を高めていく。

○遊具の片付けをきちんとしない。

- ・片付けたら、カードにスタンプを押したり、シールを貼る。（片付けの最初のきっかけとして）

テーマ⑤：ケンカ等が起こった時の対応

○ケンカをして訴えてくる子が興奮していると、何を言っているか聞き取りきれない

- ・周囲にいた児童など、第三者から聞き取る

○児童の様子

- ・よくけんかをするのに、いつも一緒にいたがる。
- ・けんかをしたときは口をきかない！と言って帰るが、次の日には仲良くなっている。
- ・わいわい広場では口が悪い子が家では良い子だったり、状況に応じて見せる顔が違う子がいる。
- ・今の子どもはけんかで急に手を出す。また、頭などの急所から攻撃する。
- ・トラブルがあった時、子どもは親に自分の都合の良い様に伝えていることが多い。

○けんかの対応策等

- ・1対1のけんかはしばらく様子を見る。1対複数や圧倒的な力の強さがある場合は止める。
- ・バットなど物を持ち出してきたら止める。それは使い方が違うよ、と伝える。
- ・キレやすい子には補助員にあらかじめ注意してもらっている。

○トラブルが起きた時の保護者への対応

- ・けがをしていなくても、状況に応じて親に伝える。不登校がちな子どもの場合とか、めずらしい組み合わせの子ども同士のけんか等。
- ・子どもは自分の都合のよいことしか言わないところがあるので、親に伝える時に、まず、子どもからどんな風に聞いているか確認する。
- ・上手に伝えないと心配しすぎる親もいる。親の状態、子どもの状態に留意して伝え方を考える。

テーマ⑥：スタッフの確保やコミュニケーション

○見守りサポーターの確保について困っている

- ・わいわいだよりに、関心を持ってもらうような内容や募集記事を掲載する。
- ・茶話会や懇親会を企画して、コミュニケーションを図る。
- ・登録の時が一番のチャンスで、補助員と一緒に呼びかけをする。
 - お迎え時に、30分でも少しでもいいからしてみませんかと声をかける。
 - だめもとで声かけをする。消極姿勢はNG。
- ・公民館にも頻繁に顔を出し、人を紹介してもらったり公募したりする。
- ・見守りサポーターはボランティアなので、感謝の心を持ち、一緒に楽しむことが大事。

テーマ⑦：学校・地域・留守家庭子ども会との連携

○連携事例

- ・留守家庭子ども会
 - 年に1回（5～6月頃）、連絡会を行っている。
- ・学校との連携
 - 日報を教頭先生に提出し、情報を共有している。
 - 学校施設利用調整会議に出席し、わいわい広場の活動の様子等を報告している。
- ・地域との連携
 - 年に数回公民館と連携して企画事業を行っている。
 - 市が作成しているリーフレットを地域や公民館に持参している。

○課題と対応策

- ・校長（教頭）の異動によりわいわい広場の運営に影響がでることがある。
 - 年度初めに、コーディネーターが校長先生のところに挨拶に行く際、わいわい先生も同席して、わいわいについて共通認識を持つ。
- ・補助員の登録は多いが、実際に補助員として関わる方は決まっている。
 - PTAの役員さんが、地域へ補助員の確保を依頼してくれる。
- ・学校、わいわい広場、留守家庭子ども会がそれぞれ遊びのルールを持っているが、きちんとしたルールの決め方が難しい時がある。
 - 基本的に学校の遊びのルールを基本としている。中には、わいわい広場と留守家庭子ども会の遊びのルールの違いが出ることもある。

テーマ⑧：雨天時の対応・リスク管理

○中止を決断してもその後晴れることもあり、自分たちの判断に自信が持てない。

1. 判断の方法（どうやって判断している？）

- ・雨雲レーダー
- ・お天気相談室へTEL
- ・近隣校の先生に聞く
- ・お天気アプリ（別のアプリを3つ入れている人もいる）
- ・午後の降水確率が50%, 60%の予報の場合に中止としている
- ・地面のぬかるみで判断

2. 判断のタイミング（いつ中止の判断を決める？）

- ・14:00, 14:30の時点で決める。

3. 関係者への周知について

- ・極力中止にしたくないのでギリギリまで天気の状態を見たいが、早くから補助員やプレイワーカーなどのスタッフからの問い合わせがくる。

→対応策

- ・曜日ごとのグループラインを作って、漏れなく即座に周知できるようにしている。
- ・中止の連絡は14:30までに行い、連絡がない場合は開催と決めている。

4. 保護者対応等

- ・親の職場と児童の学校で天候の状況が違ったりすることもあるので、中止にしても理解を得るのが難しい場合がある。→引き続き 保護者への理解 をしてもらう必要がある。

テーマ⑨：わいわい先生1年目

○参加カード返却の工夫

- ・子どもが並ばない。人の話を聞かない。他人のカードをもらっても気づかない。落ち着かない。

→（工夫）・学年毎に整列させて配っている

- ・多いときは高学年の子どもに配ってもらっている。
- ・ゲーム感覚でカードを取るようにして子どもが喜ぶように工夫する。

○帰りの会の子どもの引き付け方

- ・集まってきたらなぞなぞを出して気持ちをこちらに向かせるようにしている。
- ・落ち着かせる工夫として簡単な絵本を読んであげている。
- ・全体をちゃんと落ち着かせて帰りの会をしようとすれば15分前位から始めないといけない。
- ・砂場遊びなど片付けに時間がかかる子どもたちには早めに声をかけているが、なるべく遊びの時間を確保してあげたい。

○お便りづくりについて

- ・お便りづくりは大変だが保護者はほとんど読んでくれない。
- ・サポーターのお願いの返事もほとんど戻ってこない

→（工夫）参加カードとお便りを見開きで作成している。

言葉を少なく写真を多くしている。顔写真は本人と分からない程度に。

令和元年度

第1回わいわい先生研修（平成31年4月10日）

～当日の意見情報共有～

テーマ①：ものを使っても片づけない、ものを大切にしない子が多い

○ 児童の実態

- ・自分は使っていないと言う
- ・途中で遊びが変わってそのままになる
- ・使っていた物を他の子の貸してしまう
- ・無くしても言わない

○ 対策1（主にわいわい先生、補助員）

- ・貸し出し簿をしっかりと記入させる（大人が管理）
- ・遊具の数を制限する（少なめに準備）することで把握している
- ・遊具返却がしやすい工夫（ボールなど、種類ごとに返却箱に番号を付けている）
- ・帰りの会での指導

○ 対策2（主に児童の自覚）

- ・片付けの見回りをしている子に参加カードにスタンプを押したり、シールを貼ったりしている
- ・予め片付け当番を決め、ネームプレートを付けさせている。
- ・チェックリーダーを作り、責任を持たせる

テーマ②：ケンカにどう対応していいかわからない

○ ケンカが起きたとき

- ・一人では止められないので補助員と一緒に対応する
- ・本人が言いたいことをとにかくうなずきながら話を聞くことに徹する
- ・落ち着きを取り戻すまでは一緒にいる
- ・どちらが悪いかジャッジすることは安易にしない

○ ケンカを仕掛ける子への対応

- ・一緒に遊びたい気持ちはあるがその気持ちに反した行動がでる
- ・その子の思いを受け止めてあげる
- ・わいわい先生が目を離さないように行動を見守る
- ・気を付けて話しかけるようにし、時には一緒に遊んであげる
- ・がまんできたときには「先生うれしかったよ」と喜んであげる

○ ケンカも大切

- ・ケンカも子どもの成長にとっていい経験
- ・わいわい先生だけでなく補助員やサポーターも同じ思いでかかわりたい

○ その他

- ・ケンカについて保護者に電話するときの自分のスタンスが難しい
ケンカも子どもの成長には欠かせないもの、自己責任の面もある
- ・目を離すとケンカになることが予測できる子どもがいる
- ・わいわいでの遊びが原因となることはそれほど多くない
学級のトラブルをわいわいに来ても引きずっていることがある（担任の先生との連携も必要）

テーマ③：子どもから暴言を吐かれる

○ 現状

- ・相手が嫌がるあだ名をつける
- ・ケンカやもめごとの中で暴言を吐く。
- ・補助員に対して「ばばあ」などの暴言を吐く。
- ・しつこく言う。注意しても逃げる。

○ どんな子が暴言を吐くのか

- ・学校ではいい子，保護者にもいい子もいる。

○ 暴言を吐く背景は？

- ・きっかけがほしい，かまってもらいたい
- ・興味がある

○ 対応

- ・子どもなりの面子や勢いもあるので，遊びの場面ではなく，個別にしっかりと諭す。
- ・子どもの見方を変え，余裕を持って接する。
- ・先生との約束，ルールをつくる。

テーマ④：他の子と交わらない子への関わりに悩んでいる

グループの意見として，対子どもではなく，「大人と遊びたがる，大人と2人になりたがる」子どもがどの学校にもいることを確認した。

○ 関わりとして

- ・わいわい先生や補助員と一緒に全体を見守りに行く，わいわい広場の受付のアシスタントをしてもらったりする。
- ・気が済むまでそばに居させる。
- ・その子と遊んでときに周りの子が気になって集まって来て，その間にずっと大人がその場から離れても大丈夫なこともある。

○ 子どもの理解として

- ・好きな遊びは個性であり，1人で黙々と取り組んでいる場合もある。
- ・1人遊びが好きな子どもを認め，わいわい広場がいろいろな子どもにとっての居場所になるようにすることは，わいわい広場では大切にしていることである。
- ・子どもを知るために，担任と話をして情報共有すると関わりの参考になる。

テーマ⑤：落ち着きなく動き回る子どもを落ち着かせたい

○ 事例

- ・運動場を走りながら、水道の蛇口を開けて回ったり登り棒をはずして回ったりする。
- ・思うようにならないと友達によく手を出す。
- ・すぐに泣き出し、泣き出したらなかなか泣きやまない。

○ 手だて

- ・子どもの行動を見守る。
 - 好きな工作等をさせると落ち着くので、工作をさせることがある。
 - ※友達が注意すると、興奮してトラブルになることがあるので、子どもには注意させないようにしている。
- ・出来るだけその子から目を離さないようにしている（声かけをこまめに行う。）
 - 話す時は、しっかり目を見て話すようにしている。また、どうしたら落ち着くか自分で考えさせる。
 - 一方的に指示をしないで、自分の行動は自分で決定させるようにしている。そのような方法をとることで、少しずつ責任感が育っていくように感じる。
 - （例）「少し走ってみたらどう？」「こんな遊びをしてみたら？」等
- ・少し落ち着いたら、どうしてそのような行動を取るのかを聞く。
- ・その子が出来そうな役割をしてもらう。

テーマ⑥：子どもが飽きっぽいのが気になる

○ 事例

- ・制作を工夫して、提案してもすぐ飽きてしまうことがある。
- ・出来ないときにすぐ諦めてしまう。
- ・別の遊びを始めた時、それまで遊んでいた道具を放置する。
- ・上級生や大人が加わるともめ事がないので、ドッジボールや野球が長続きする。

○ 手だて

- ・チャレンジカードなどを用意しておいて、自由に遊具を使っていいようにしている。
 - コマとか縄跳び
- ・帰りたいと言い出す子どもには、「これしてみたら」などと声かけをする。
 - それでもだめなときは、保護者に連絡を取って許可を得た子どもは帰宅させる。
- ・気にしなくていいのではないかな。
- ・飽きっぽくていい。一つのことに集中しなくても良い。
- ・いろんな事をして遊んでいいのではないかな。

提出締切:実施月翌月10日まで
(あて先)
福岡市(こども未来局 放課後こども育成課)

<資料3参考>

令和元年度 プレイワーカー 活動内容報告書

令和 年 月 日

()小学校 わいわい先生

■プレイワーカー記入欄

実施日	令和 年 月 日 ()				
活動時間	時 分 ~ 時 分			計 時間	
氏名					
活動場所	校庭 ・ その他 ()				
主な活動内容 (遊びの内容)					
活動において 留意したこと ※各項目ごとの評価に○	留意項目	(できた) 評価 (足りなかった)			
	① 自分自身が「遊び心」を持って楽しく過ごせた。	←————→ 5 4 3 2 1			
	② 遊びの引き出しを提示し、遊びのきっかけづくりができた。	←————→ 5 4 3 2 1			
	③ 子どもの主体性を尊重した。	←————→ 5 4 3 2 1			
	④ 遊びを通して、子どもたちと関係性を築くことができた。	←————→ 5 4 3 2 1			
	⑤ 子どもの気持ちに寄り添い、理解することができた。	←————→ 5 4 3 2 1			
	⑥ 教えたり、指導したりしすぎないよう意識した。	←————→ 5 4 3 2 1			
	⑦ 遊び場全体を把握しながら活動できた。	←————→ 5 4 3 2 1			
感想・気づき					

※活動時間を記載する際は、わいわい先生に確認して記載してください。
※30分未満の活動時間については切り捨てになります(例. 14:15~17:00→2.75Hではなく2.5H)

■わいわい先生記入欄

※該当項目に☑

プレイワーカーに特に意識してもらった点		当日の 広場の状況
子どもに寄り添い、心地よく過ごせる場づくり	☐	☐
子どものすることに関心を持ち、何故それをするかを考え、子どもの「やりたい」を尊重する	☐	☐
指示したり、指導的な関わりにならないように意識する	☐	☐
子ども自身から主体的に動きだせるよう、 子どもの「やってみたい」という気持ちを引き出す	☐	☐
その他 []	☐	☐

その他 (改善点や感想などがあれば)	

※企画事業等通常のわいわい広場以外の開催や学生プレイワーカー育成事業による活動は記入不要です

※休日わいわい広場での活動は記入が必要です

<全体>

●平成30年度、放課後子ども育成課に報告があった児童の事故・ケガ等の件数は90件

○1年生55件、2年生20件、3年生13件、4年生2件

○1学期25件、2学期49件、3学期16件

○発生場所は、校庭84件、体育館3件、その他3件

<ケガの状況について>

事故発生場所等		件数
固定遊具	滑り台	6
	ブランコ	14
	シーソー	2
	バスケットゴール	2
	鉄棒	9
	のぼり棒	1
	雲梯	3
運動・スポーツ系	鬼ごっこ等	2
	ドッジボール	3
	一輪車	4
	野球	2
	サッカー	6
	テニス	1
	ボール遊び	1
	バドミントン	2
	フラフープ	2
	ホッピング	2
その他 その他	手・足洗い場	1
	砂場	1
	その他	26
合 計		90

<ケガの種別について>

傷病名	件数
打撲	60
創傷	10
骨折	6
捻挫	6
その他	8
合計	90

<ケガの箇所について>

部位		件数
頭部 68件	頭	24
	目、目のまわり	11
	顔	12
	鼻	6
	顎	2
	耳	2
	口	11
腕部 14件	手指	8
	腕	4
	手の甲	2
脚部6件	脚	5
	脚指	1
その他2件		2
合計		90

<病院受診について>

	件数
1回のみの受診	37
通院	25
入院	2
受診なし	26
合計	90

<保険加入について>

	件数
スポーツ安全保険	64
任意保険	15
その他	11
合計	90

<保険手続きについて>

	件数
手続きあり	46
手続きなし	44
合計	90

- 固定遊具でのケガ：遊具からの落下によるもの、遊具への衝突や接触によるもの等
- 運動・スポーツ系のケガ：転倒、ボールが当たったり取り損ねたりによるもの、友達とぶつかる等
- その他のケガ：段差に躓く、他の児童に踏まれる、他児童が投げた遊具が当たる等

令和元年度事業者運営方針

各事業者運営方針より	遊びの質の向上	【現状（良い点）】 ・高学年が声を掛けて異年齢で集団遊びをしている。 ・工作教室ではなく、子どもの作りたいものを自由に作るものづくりに変化した学校が増えている。 ・遊びに夢中になり、できるようになるまで目標を立てて取り組む姿勢が見られる。 【課題】 ・子どもが大人の影のないところで自由に自発的に遊びを展開する力をつけるにはどうあるのいいか。 ・子どもの自発的な遊び、想像力を引き出すためにわいわい先生のスキルアップが必要。 ・わいわい先生の遊びに対する意識のばらつきが見られる。 ・おもちゃをわざとまたは不適切な扱いで壊してしまう子どもへの対応。 【令和元年度の取り組み】 ・見守る大人の役割について議論する場を設ける。 ・子どもたちが自由な発想で遊びや工作を創造できる環境を作る。 ・プレイヤーを活用するなどして、子どもの遊び心を刺激する。 ・わいわい先生同士が話し合う機会を設け、スキルアップの向上、遊びの充実を図る。
	現場支援・人材育成・人材確保等	【現状や課題】 ・校区によって地域や留守家庭子ども会との繋がりに差がある。 ・わいわい先生はひとりで現場を抱えているため、悩みや不安がある。 【令和元年度の取り組み】 ・定例会や危機管理強化日のほか、外部講師による研修や集団での現場研修を取り入れる。 ・社員が間に入り、わいわい広場と、地域や留守家庭子ども会との繋がりをサポートする。 ・休日わいわい広場を活用し、地域や保護者へ普及啓発を行う。
	その他	【現状や課題】 ・リスク管理 【令和元年度の取り組み】 ・遊び場のルールの違い（学校・留守家庭・一度帰宅し遊びに来た子どもたち）の理解を関係団体とすりあわせる。 ・地域との連携、PR活動、多様なわいわい広場の出番を探り、通常開催以外の役割を担っていく。 ・開催前の現場スタッフ間の気になる点等についての情報共有

福 岡 市
「放課後等の遊び場づくり事業」に関するアンケート報告書
◆ 概 要 版 ◆

<調査期間> 平成 31 年 1 月 16 日～1 月 23 日

<調査対象> わいわい広場を実施している小学校の児童の保護者（16 校）

<調査数等> 調査数：9,461 有効回収数：7,518 有効回収率：79.5%

CONTENTS

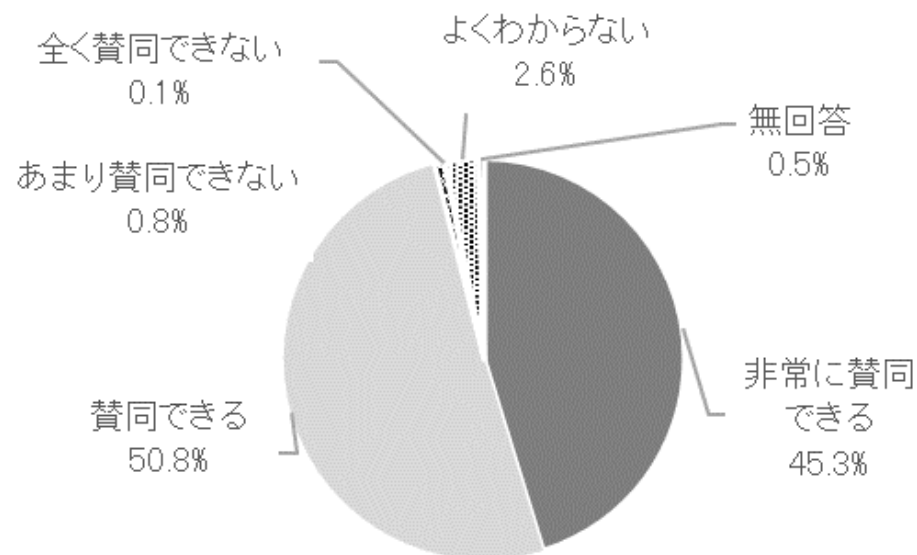
わいわい広場について	．．．．	1 P
見守りサポーターについて	．．．．	6 P
お子さまの遊びについて	．．．．	8 P

■わいわい広場について

【わいわい広場への理解】

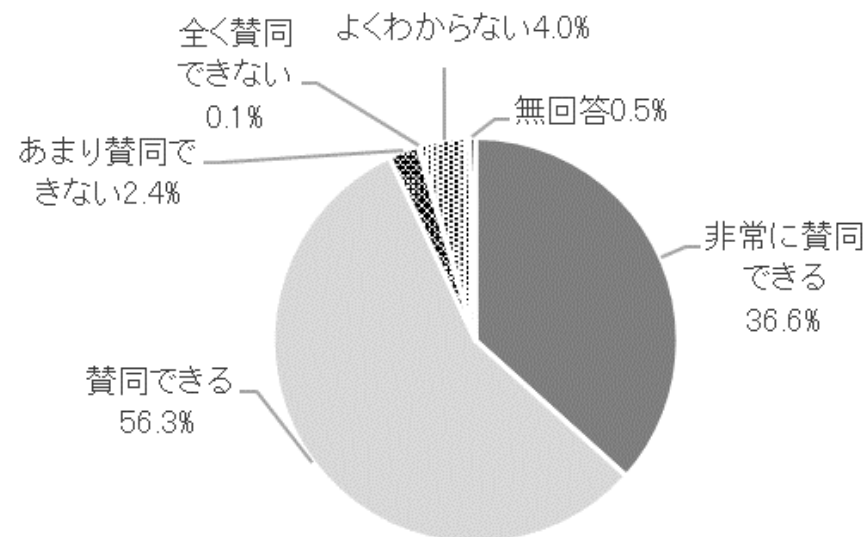
「わいわい広場」の趣旨に対する意見をみると、「非常に賛同できる」と「賛同できる」という回答が全体の 9割(96.1%) を超えており、ほとんどの保護者の賛同を得ることができている。

Q.「わいわい広場」の趣旨について、お考えをお聞かせください
n=7518



「わいわい広場」の地域等の見守りに対する意見をみると、「非常に賛同できる」と「賛同できる」という回答が全体の 9割(92.9%) を超えており、ほとんどの保護者の賛同を得ることができている。

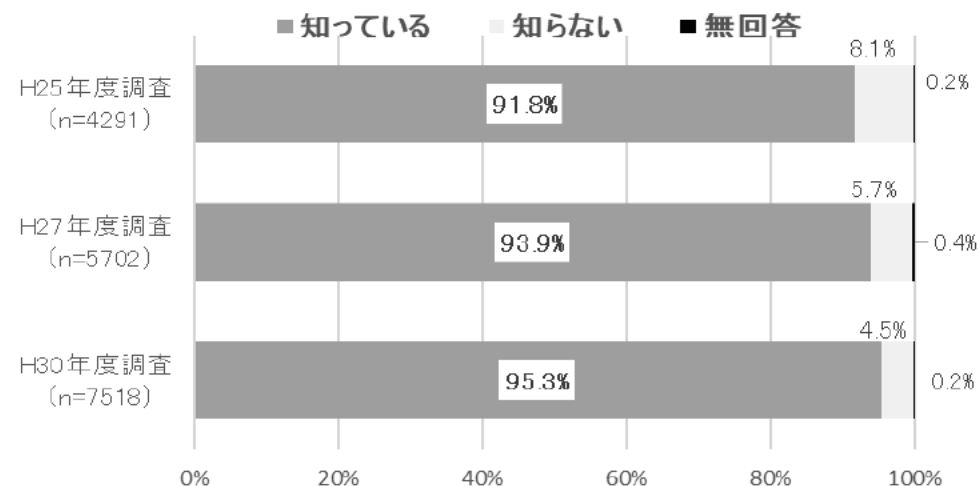
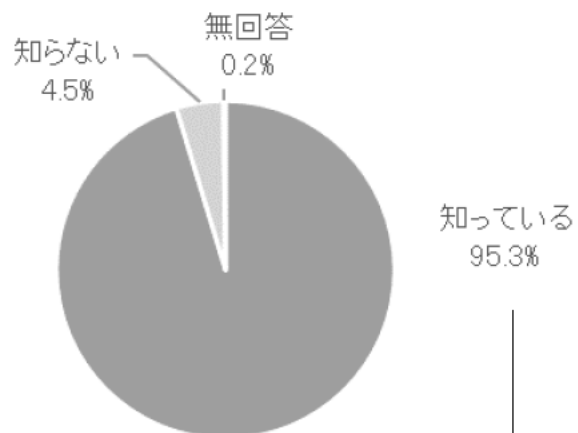
Q.「わいわい広場」が地域関係者や保護者のみなさまに見守っていただきながら実施していることについて、お考えをお聞かせください
n=7518



【わいわい広場の認知度】

「わいわい広場」を「知っている」が9割強（95.3%）。H25年度・H27年度調査と比較すると、徐々に「知っている」が増加しており、普及啓発の成果が上がっていると考えられる。

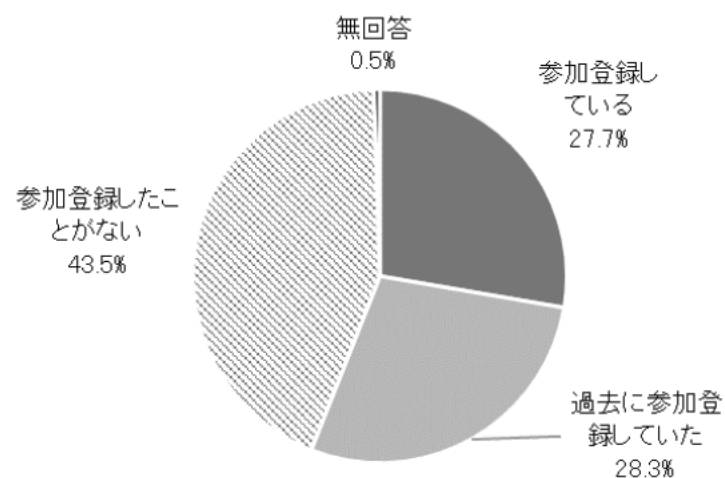
Q. このアンケートを実施する前から、「わいわい広場」をご存知でしたか？
n=7518



【わいわい広場の登録割合】

「わいわい広場」を「知っている」と回答した世帯（7,168）のうち、「参加登録している」が27.7%、「過去に参加登録していた」が28.3%であり、参加登録経験がある児童は全体の6割弱（56.0%）を占めている。

Q. 「わいわい広場」を知っていると回答した世帯のうち、お子さまは「わいわい広場」に参加登録したことはありますか？ n=7168

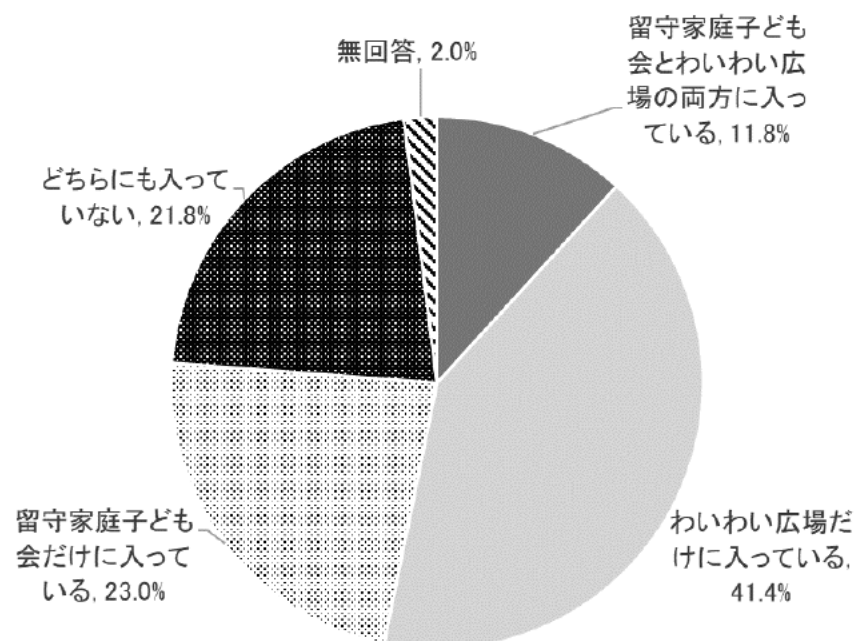


【わいわい広場と留守家庭子ども会を合わせた利用状況】

「わいわい広場」と「留守家庭子ども会」の参加登録の状況について、1年生の状況をみると、
「わいわい広場」「留守家庭子ども会」どちらかに入っている児童は、1年生全体の8割弱（76.2%）を占めている。

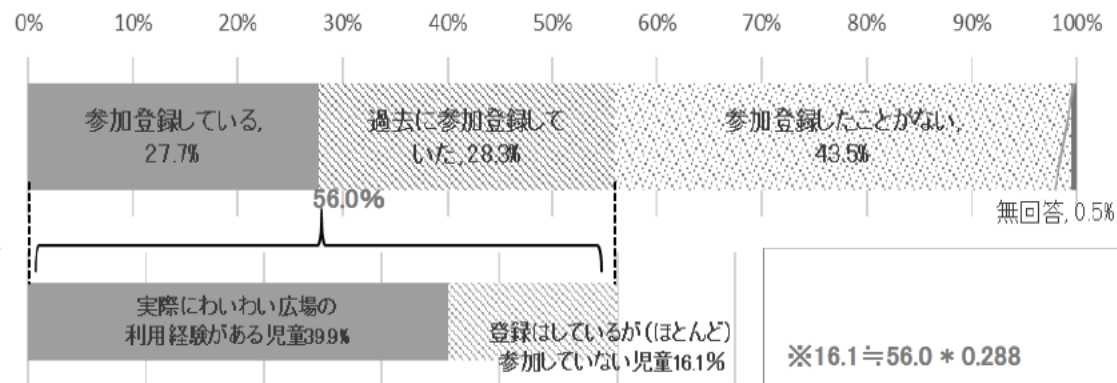
「わいわい広場」「留守家庭子ども会」が1年生の放課後に果たす役割は大きいと言える。

Q.1年生の「わいわい広場」と「留守家庭子ども会」参加登録状況 n=1363



【わいわい広場の実際の利用割合】

わいわいひろばの参加登録経験がある児童（56.0%）のうち、わいわい広場に参加して感じた変化はとの問いに「登録はしているが、ほとんど参加していないためわからない」との回答が28.8%となっており、参加登録児童のうち4分の1程度はほとんど参加していないと推測されるため、実際にわいわい広場の利用経験がある児童は全体の約4割（39.9%）と考えられる。 n=7168

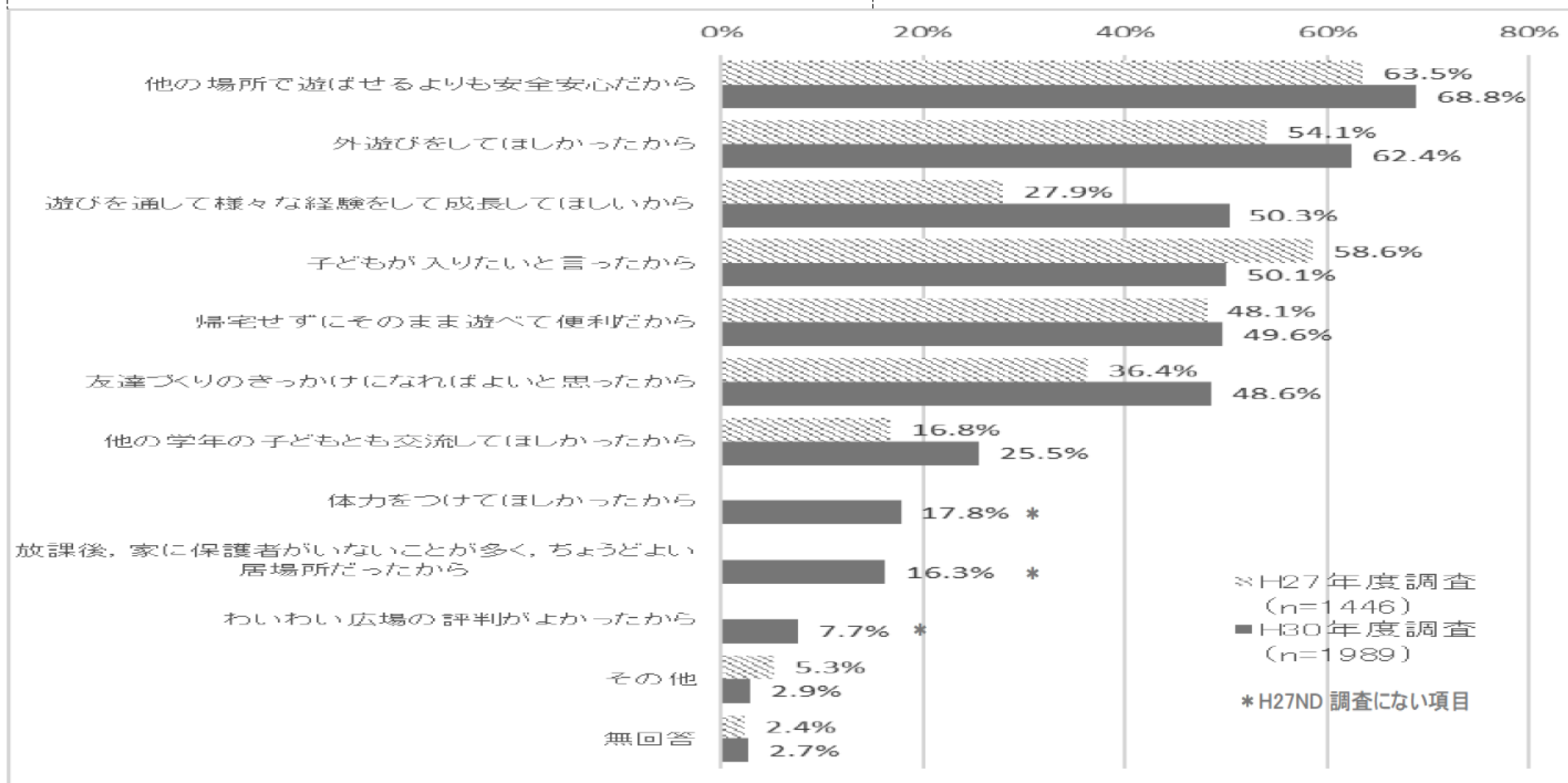


【わいわい広場登録の理由】

「わいわい広場」に現在参加登録していると回答した世帯の登録理由をみると「他の場所で遊ばせるよりも、安全安心だから」(68.8%) が最も多く、以下「外遊びをしてほしかったから」(62.4%)、「遊びを通して、様々な経験をして成長してほしいから」(50.3%) と続いている。

前回調査（H27年度）と比較すると、特に「遊びを通して、様々な経験をして成長してほしいから」の割合が22.4ポイントと大幅に増加しており、保護者が子どもの育成における遊びの効用を期待していることがうかがえる。

Q.お子さまを「わいわい広場」に参加登録された理由は何ですか？ n=1989

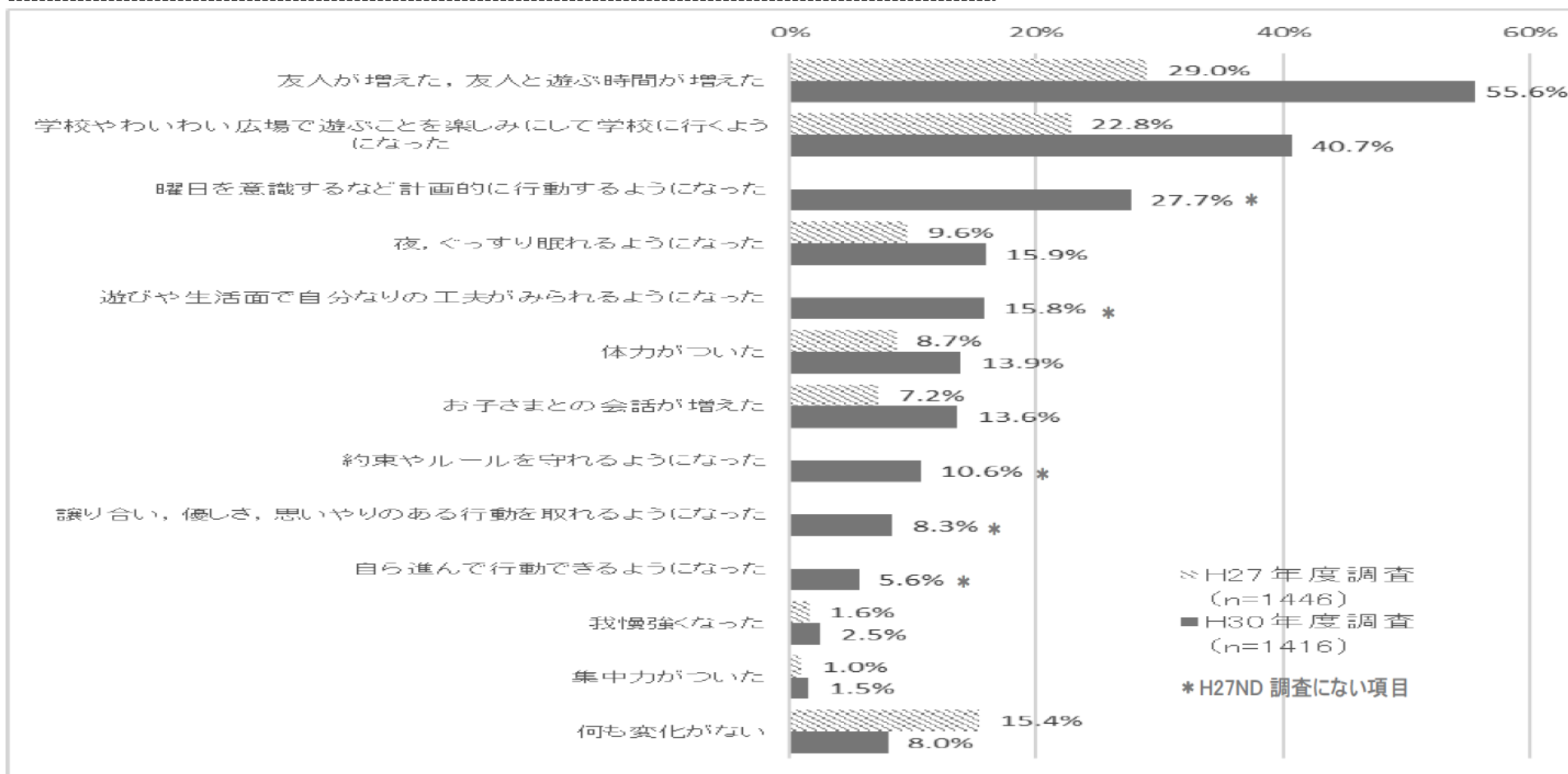


【わいわい広場に参加して感じた変化】

「わいわい広場」に現在参加登録していると回答した世帯の「わいわい広場」に参加して感じた変化をみると「友人が増えた，友人と遊ぶ時間が増えた」（55.6%）が最も多く，以下「学校やわいわい広場で遊ぶことを楽しみにして学校に行くようになった」（40.7%），「曜日を意識するなど計画的に行動するようになった」（27.7%）と続いている。

また，「特に変化がない」が前回調査（H27年度）より7.4ポイント減少しており，何かしらの変化を感じている世帯が多くなっていると考えられる。

Q.お子さまが「わいわい広場」に参加されて，変化したと覚えることはなんですか？ n=1416
（「登録はしているが（ほとんど）参加していないため，わからない」と回答した世帯を除く）

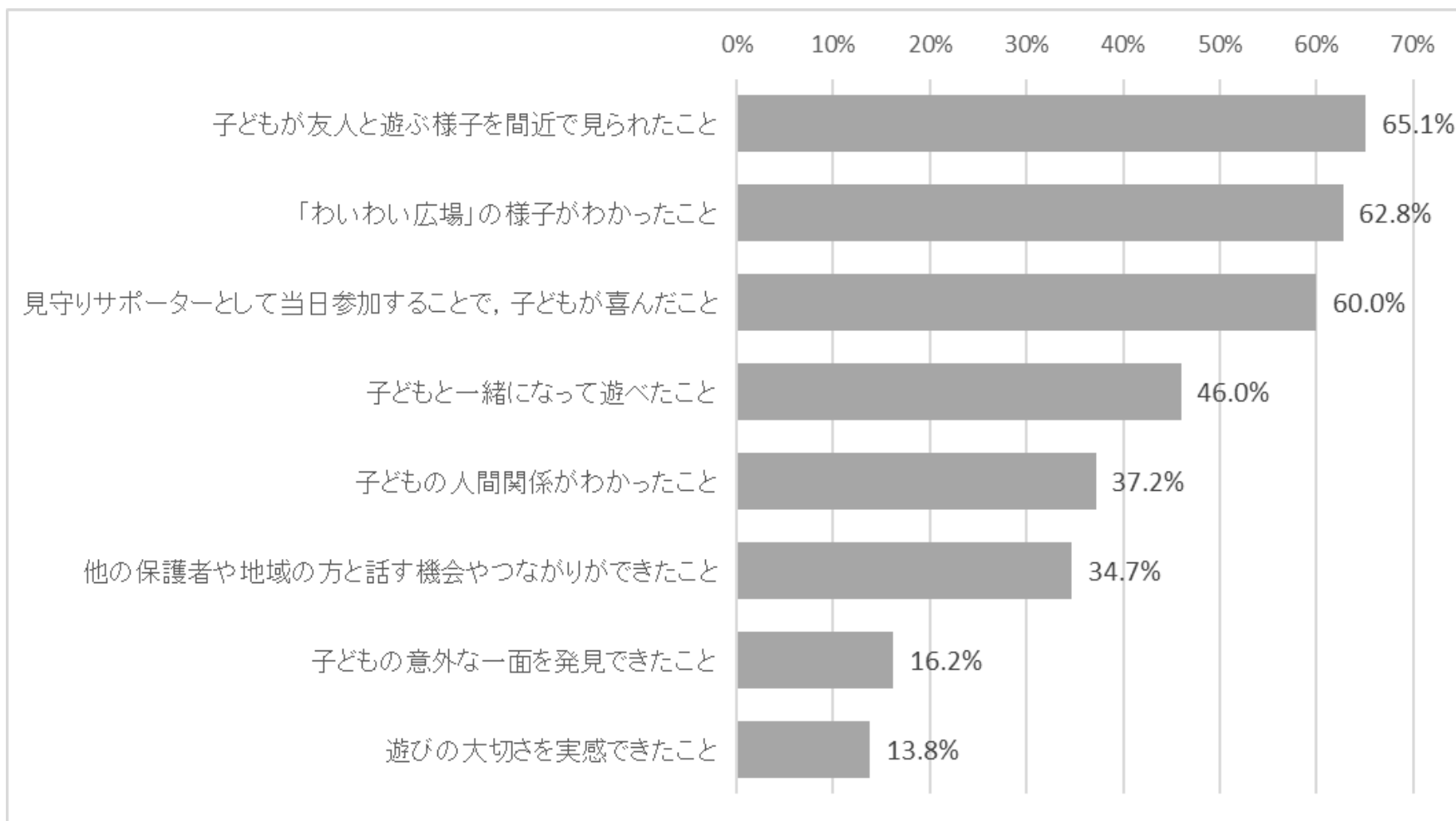


■見守りサポーターについて

【見守りサポーターに参加して良かったこと】

「子どもが友人と遊ぶ様子を間近で見られたこと」(65.1%)が最も多く、以下、「わいわい広場の様子がわかったこと」(62.8%)、「見守りサポーターとして当日参加することで子どもが喜んだこと」(60%)と続いている。

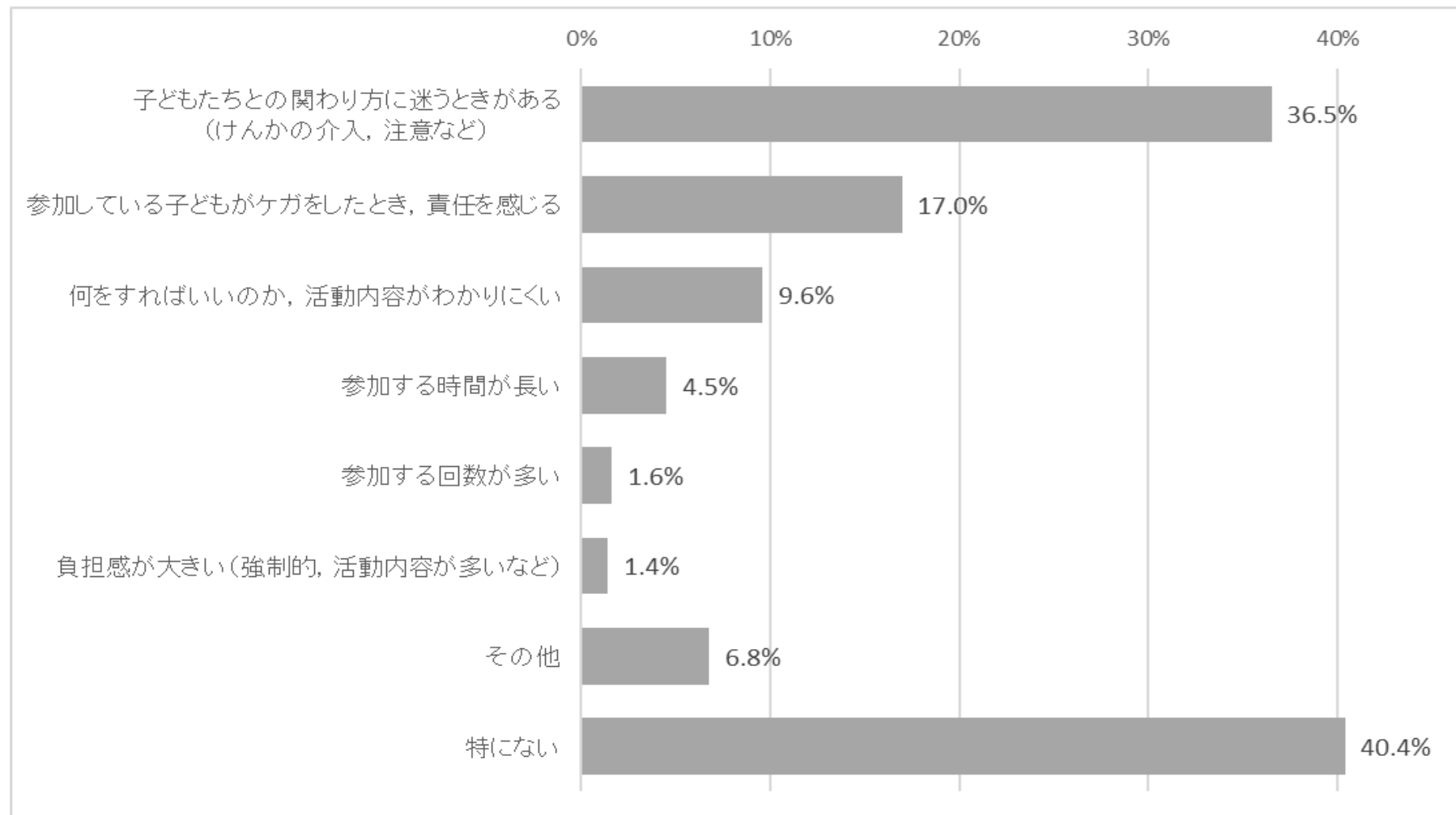
Q.「見守りサポーター」に参加して、良かったと思うことは何ですか？ n=513



【見守りサポーターに参加して不安・不満に思うこと】

「子どもたちとの関わり方に迷うときがある（けんかの介入、注意など）」（36.5%）が最も多い。
わいわいだより等で事例を取り上げるなど、子ども達への関わり方について保護者に伝えていく対応が必要と思われる。

Q.「見守りサポーター」に参加されて、不安・不満に思うことは何ですか？ n=513

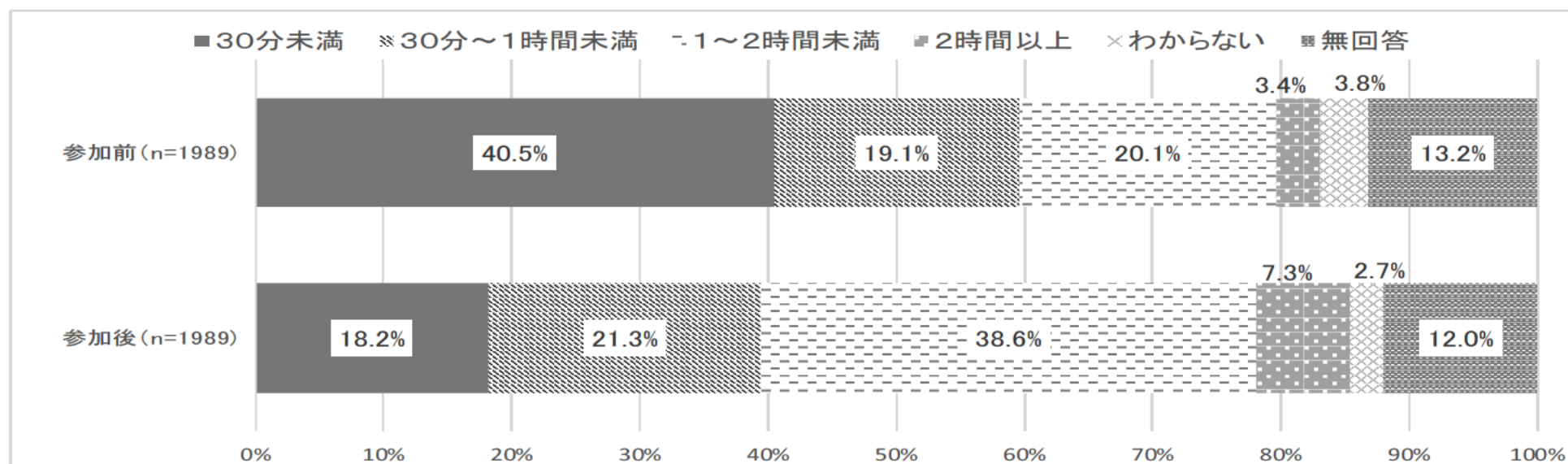


■お子さまの遊びについて■

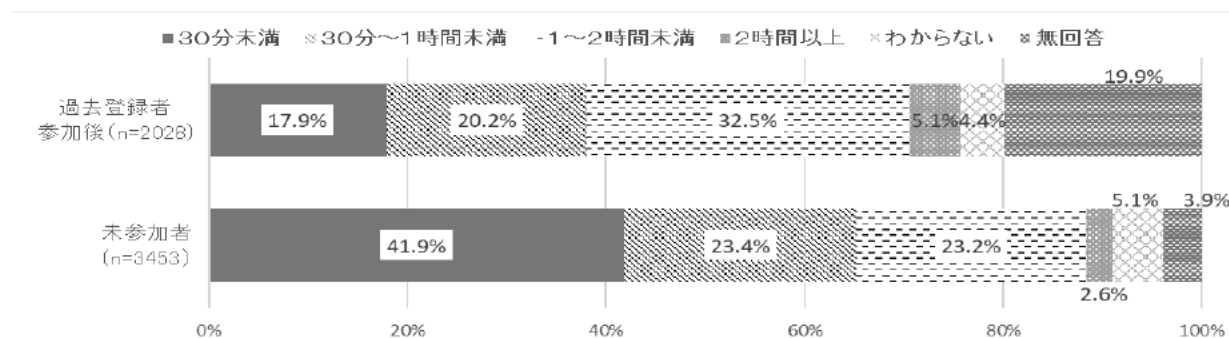
【外で遊んでいる時間】

現在わいわい広場に参加登録している児童について、学校から帰って外で遊んでいる時間をみると、参加登録する前は「30分未満」が約4割（40.5%）と最も多くなっているが、参加登録した後は「1～2時間未満」が最も多く4割弱（38.6%）となっている。

Q. お子さまは、学校から帰ってからどれくらい外で遊んでいますか？（わいわい広場参加後は、わいわい広場に参加した時間も含めて）



現在参加登録しておらず過去にわいわい広場に参加登録したことがある児童は、わいわい広場に参加登録したことのない児童と比べて、わいわい広場に参加しなくなった後も外で遊んでいる時間が多いことがうかがえる。

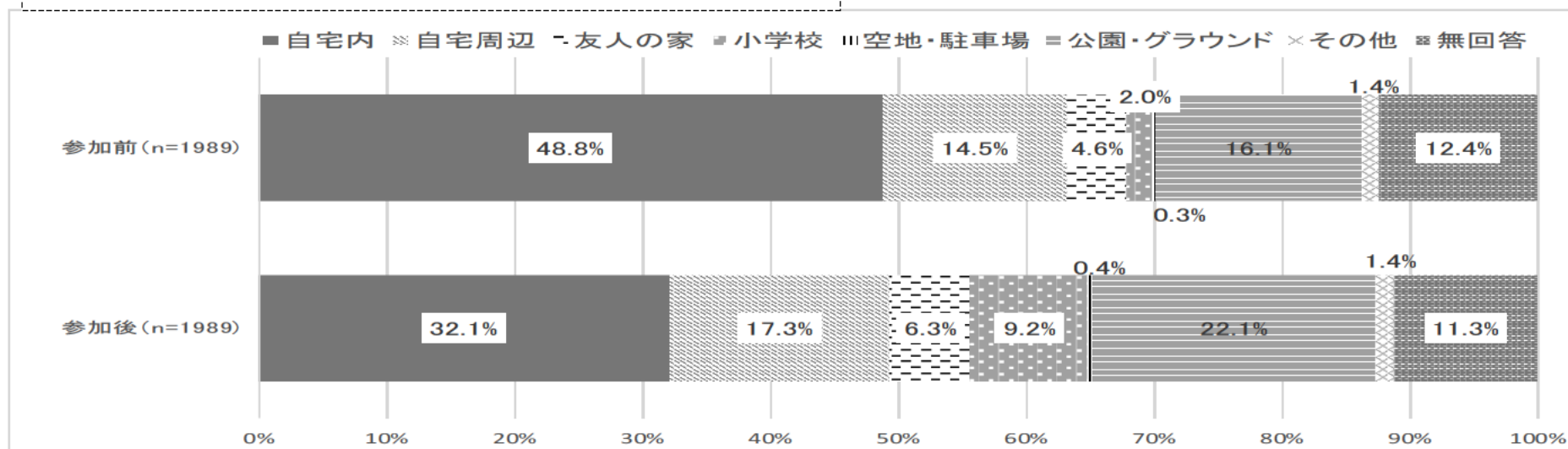


【遊ぶ場所】

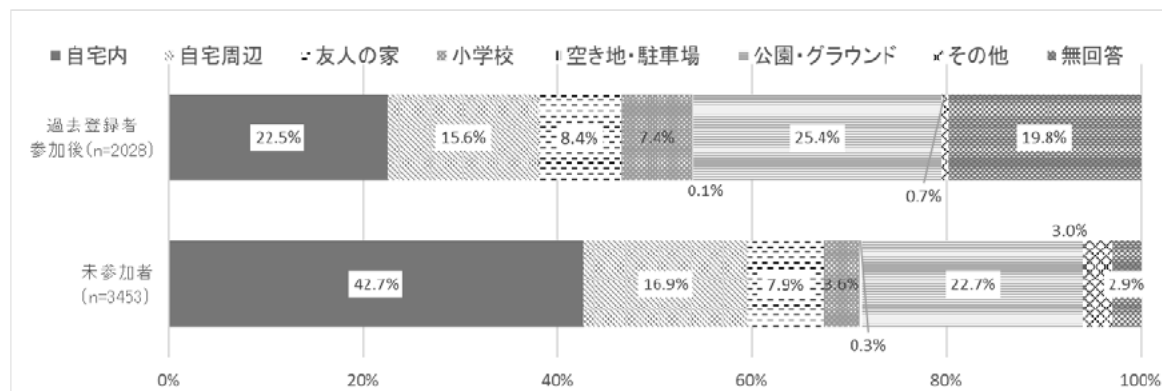
現在わいわい広場に参加登録している児童について、学校から帰って遊ぶ場所をみると、参加登録する前は「自宅内」が5割強(48.8%)を占めて最も多い。参加登録した後も「自宅内」が3割強(32.1%)と一番多いが、参加前に比べると16.7ポイント減少している。

逆に参加後に「小学校」(7.2ポイントアップ)、「公園・グラウンド」(6.0ポイントアップ)で遊ぶ児童が増加している。参加前より参加後に屋内での遊びが減少し、屋外での遊びが増えている。

Q. お子さまは、学校から帰ってから、どこで遊ぶことが一番多いですか？



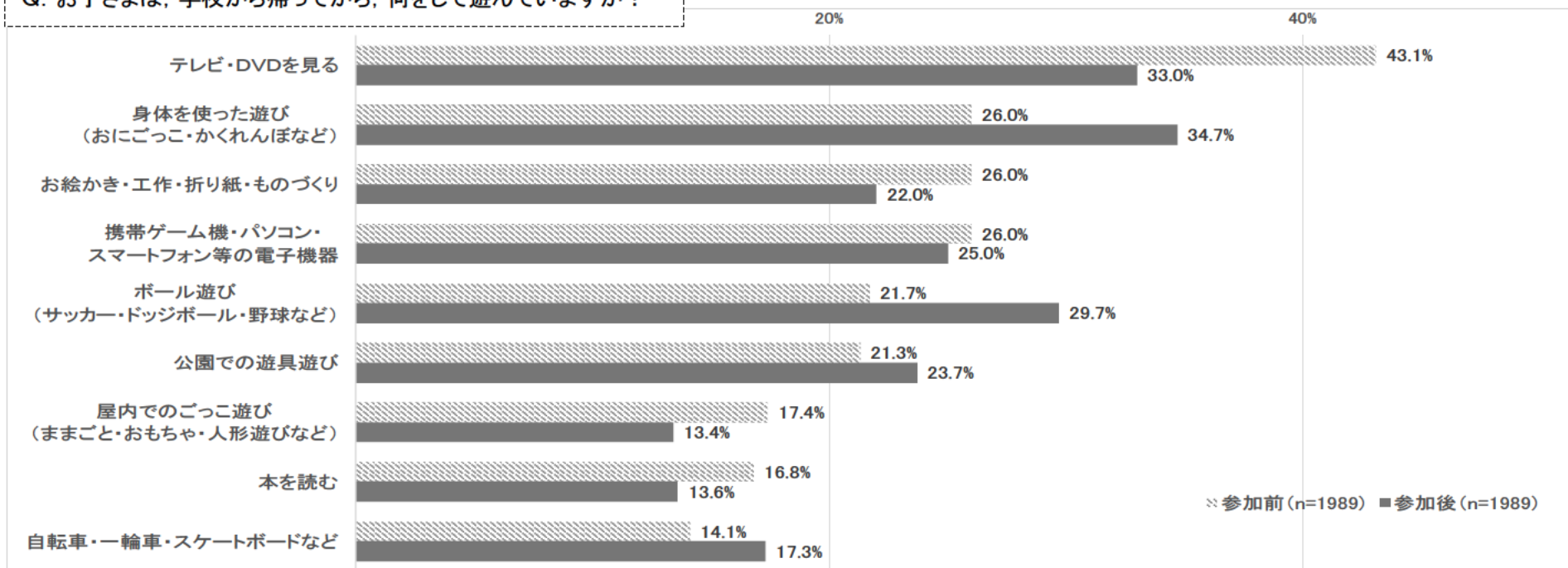
現在参加登録しておらず過去にわいわい広場に参加登録したことがある児童は、わいわい広場に参加登録したことのない児童と比べて、自宅以外で遊ぶことが多いことがうかがえる。



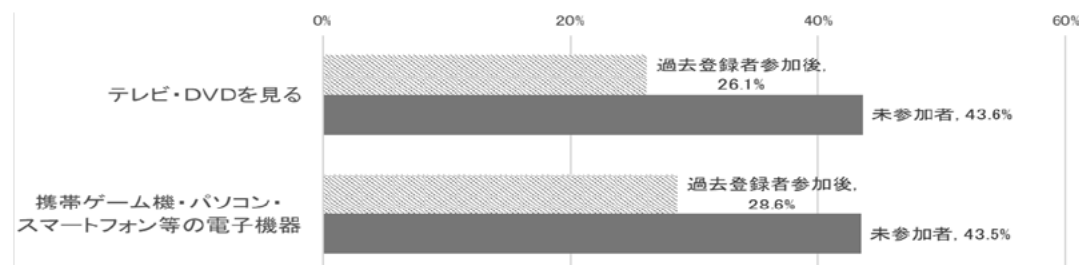
【遊ぶ内容】

現在わいわい広場に参加登録している児童について、学校から帰って遊ぶ内容をみると、参加登録する前は「テレビ・DVDを見る」が4割強（43.1%）と最も多く、以下「身体を使った遊び（おにごっこ・かくれんぼなど）」（26%）、「お絵かき・工作・折り紙・ものづくり」（26%）、「携帯ゲーム機・パソコン・スマートフォン等の電子機器」（26%）と続いている。参加登録した後は「身体を使った遊び（おにごっこ・かくれんぼなど）」（34.7%）が最も多く、「ボール遊び（サッカー、ドッジボール、野球など）」、「公園での遊具遊び」も参加前より割合が増えており、参加前より参加後は、外で体を動かす遊びが増えている。

Q. お子さまは、学校から帰ってから、何をして遊んでいますか？



一度もわいわい広場に参加登録したことのない児童（未参加者）は、「テレビ・DVDを見る」（43.6%）、「携帯ゲーム機・パソコン・スマートフォン等の電子機器」（43.5%）の割合が過去登録者の参加後の割合（26.1%、28.6%）と比べて、17.5 ポイント、14.9 ポイントそれぞれ高く大きな差がみられる。〈過去登録者参加後n=2028, 未参加者 n=3453〉



平成30年度 わいわい広場 児童向けアンケート 集計結果

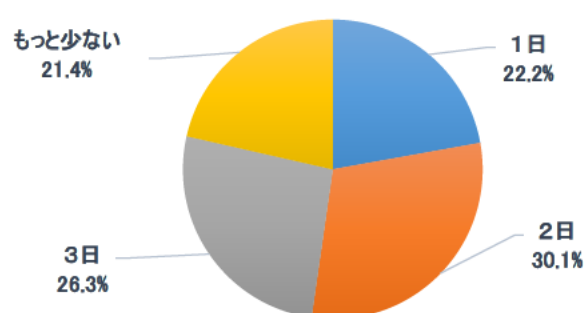
■調査期間・調査方法：平成31年2月6日各受託会社へ依頼→3月15日提出締切

■調査対象：わいわい広場登録児童

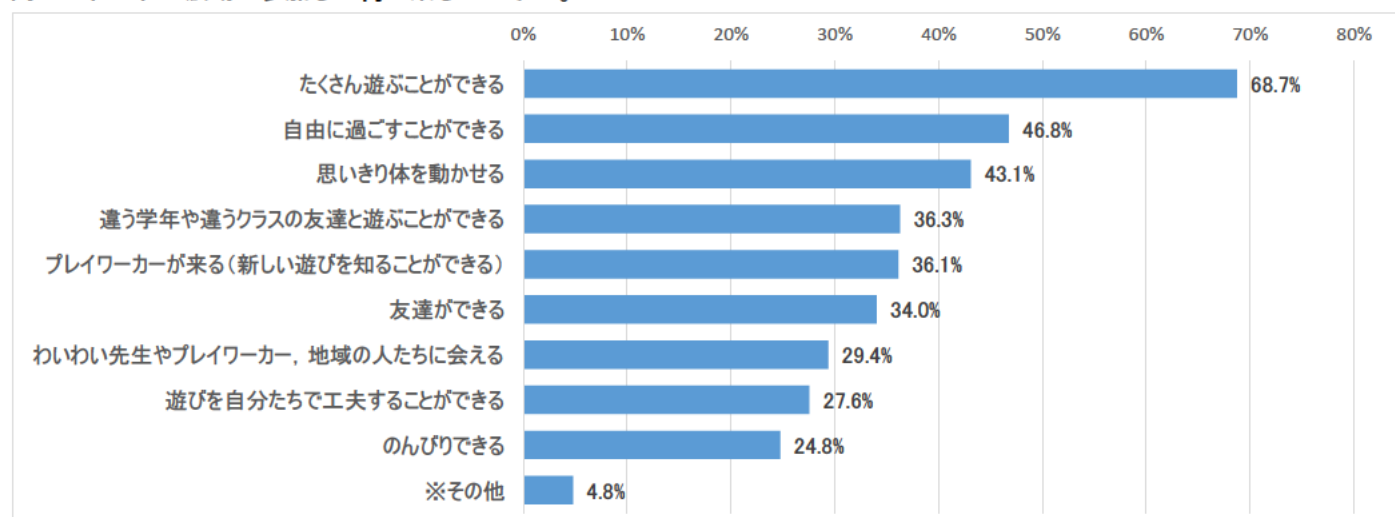
	合 計
調査校数	70校
受託校数	126校
回収率(校数)	55.6%
回答人数	2,921
わいわい広場登録人数 (H31.3末)	9,884
回収率(人数)	29.6%

問1 週に何日くらい「わいわい広場」に行っていますか。

	合 計
1. 1日	22.2%
2. 2日	30.1%
3. 3日	26.3%
4. もっと少ない	21.4%



問2 わいわい広場に参加して何が楽しいですか。

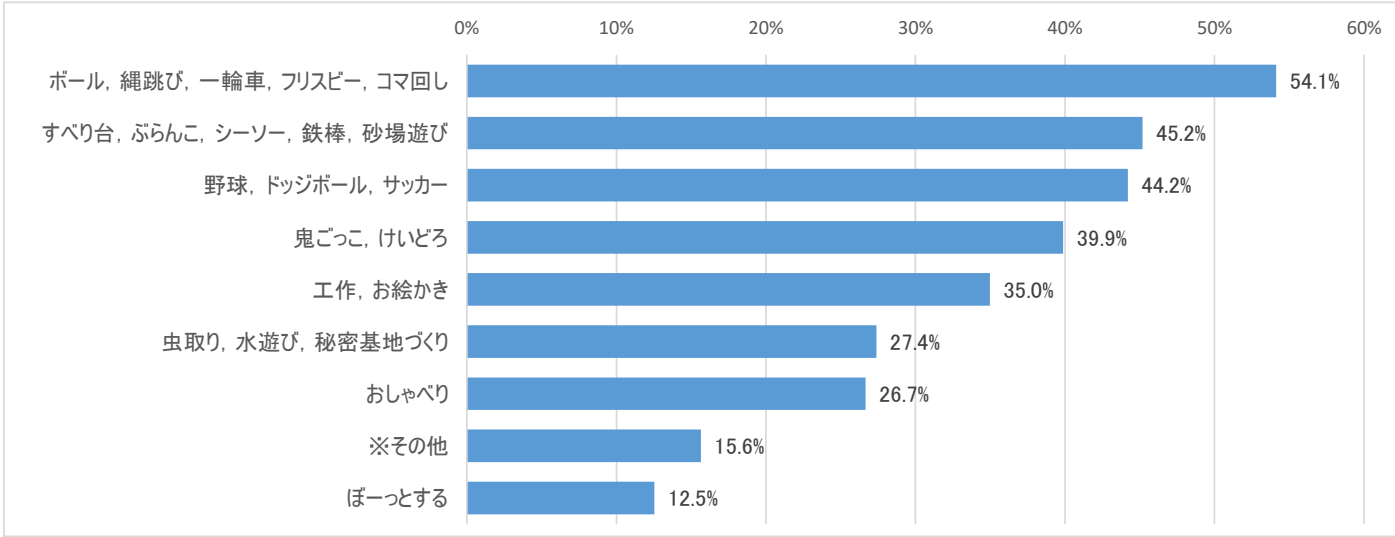


※その他 自由記載

- ・友だちと一緒に楽しく遊べる・仲良くなれる(13件)
- ・工作(ものづくり)ができる(8件)
- ・宿題ができる(8件)
- ・一輪車(6件)
- ・遊びたい道具やいろんなもので遊べる(5件)
- ・たくさんおもしろいことや楽しいことがある(4件)
- ・わいわい先生(4件)
- (おもしろい, やさしい, 美人, 新しい遊びを教えてくれる)
- ・イベント(2件)
- ・昔遊び(けん玉・シャボン玉)がとても楽しい(2件)
- ・補助員と遊ぶこと(2件)
- ・プレイワーカーさんの遊びが好き
- ・下級生と遊べる
- ・ドッジボール
- ・トロッコ、段ボールそり等家にはない遊びがある、制作の種類が多い
- ・何もないとこからお友達と遊びを作れるのが楽しい

- ・メリーゴーランド
- ・ホッピングの練習ができる
- ・野球ができる
- ・新しい遊びができる
- ・みんなが「えがお」になる
- ・学校の運動場だから安心して遊べる
- ・けんかができる
- ・全部好き
- ・足が速くなる
- ・トイレや水道が有る
- ・楽しくない

問3 わいわい広場のどんな遊びが好きですか。



※その他 自由記載			
バスケットボール(16件)	中当て	どんぐり合戦	はないちもんめ
ホッピング(10件)	穴ほり	なわとび大会	ようちゅうごっこ
テニス(9件)	イベント	ビー玉当て	わいわいラリー
バトミントン(8件)	きたえる	ひかげごっこ	さるおにごっこ
おうち(家族)ごっこ(7件)	カップ積み	ブラバン	マグネット遊び
フラフープ(6件)	キックベース	ボーリング	マイクラごっこ
折り紙(5件)	ボール打ち	キャッチボール	リンゴが1つ
大縄跳び(5件)	ゴムつなぎ	ままごと	りんごが何個
のぼり棒(5件)	ゴムとび	ミサンガ	りんごりんご
かくれんぼ(4件)	ゴム遊び	もぐら王子	大きなりんごがいくつ
けん玉(4件)	えかきおに	ろくむし	お友だちとする遊び全部
お手玉(3件)	バナナ鬼	皿回し	友だちと遊ぶ
シャボン玉(4件)	色鬼	紙飛行機	じゃんけん大会
ジャングルジム(3件)	自由帳	組みひも	これは何でしょうゲーム
砂鉄集め(3件)	水鉄砲	凧つくり	トランポリンイベント
竹馬(3件)	貝殻かざり	竹ポックリ	わかば(留守家庭)のこと遊ぶこと
ジャングルジム鬼ごっこ(2件)	学校ごっこ	泥んこ遊び	輪ゴムで作るアクセサリー
オセロゲーム(2件)	缶ポックリ	泥だんご作り	新聞を書くこと
かけっこ(2件)	サッカー	逃走中	マシュマロスライム作り
こおり鬼(2件)	トロッコ	読書	タイヤじゃんけん
スライム(2件)	しりとり	変な遊び	おしくらまんじゅう
チャンバラ(2件)	ステッピー	ハンター鬼ごっこ	学校の参観日にわいわい広場があるのが楽しい
へびじゃんけん(2件)	上か下か	ねるスパイごっこ	友達にコツを教わってできるようになること
猿渡(2件)	宿題	ターザンロープ	先生(わいわい先生補助員PW)と遊べること
バレーボール(2件)	木登り	ころがしドッジ	先生とおしゃべり
走り回る(2件)	手芸	ドッジボール	わいわい先生のそばにすること
風船(2件)	手品づくり	砂場ドッジボール	補助員さんの手作りの遊具で遊ぶ
宝探し(2件)	手編み	的あてゲーム	ハンモックのすけ(プレーワーカー)のぼうしとり
毛糸遊び(2件)	編み物	黒板で遊ぶこと	プレイワーカーさんと遊ぶ
ソリ(2件)	肋木	バランスボール	プレイワーカーとする工作
雲梯(2件)	魚釣り	シュシュづくり	名人に会えることが楽しいです
工作(2件)	木登り		
ゴルフ(2件)	縄跳び		

わいわい広場の遊びの状況（主な事例）

■遊びの内容

【室外】

ボール遊び（ドッジボール、サッカー、野球、的当て）、フラフープ、フリスビー、一輪車、ホッピング、竹馬、段ボールそり、ダーツ、こま、シャボン玉、ゴム跳び、長縄、バトミントン、けん玉
 ペットボトルを使っの遊び（ペットボトルにつっじの花びらと水を入れ色水作り）
 ジャングルジム、シーソー、ぶらんこ、滑り台、肋木、鉄棒、砂場遊び、
 鬼ごっこ、けいどろ、
 宿題、工作、ままごと、紙飛行機とばし、お絵描き、宝探し、スライム作り、魚釣りゲーム

【室内】

トランプ、積み木、ブロック、オセロ、ゴム飾りづくり、折り紙、あやとり、ミサンガづくり、バランスゲーム、ダーツ、ハンカチ落とし、茶壺、読書、宿題

【季節的な遊び】

虫取り（トンボ、バッタ）、水遊び（マヨネーズの容器やペットボトルを使っの水鉄砲）、水風船遊び など

■プレイワーカー招聘時の遊び

- ・プレイワーカーの来校を楽しみにしている児童も多く、招聘時は広場に参加する児童が増加する。
- ・割りばしを使っ輪ゴム鉄砲をPWと作り、子どもたちも独自に考えてオリジナルの鉄砲を作っていた。
- ・ドッジボールをする際にプレイワーカーが声をかけ、いつもはしない子どもたちも楽しんでた。
- ・プレイワーカーが鬼ごっこ等に加わり、学年を問わず巻き込みながら遊ぶことで高学年と低学年の交流が生まれていた。
- ・プレイワーカーの教えてくれた、くみひもづくりが、子どもたちの間で長い間人気の遊びとなった。
- ・プレイワーカーと遊んだ遊びを次の広場のときに、自分達でやっていた。

■広場に参加する子どもたちの声

- ・1年生女子の1人は、「思いっきり遊べる。」と言って、ランドセルを置いたらすぐに一輪車で遊び始めた。
- ・1年生男子が突然「わいわい広場ってめっちゃくちゃ楽しい！」と、わいわい先生に言ってくれた。
- ・「わいわいは天国にいるみたい」と言って楽しんでた。

■自由な遊び場としての様子

- ・机でお絵かきや宿題，ボール遊びなどの主に3つの遊びのグループが出来ていたが，グループに拘束されるわけではなく他のグループに入ったり，一人でブランコにのったりと自由で，どのグループも学年関係なしで遊んでいる。
- ・寒くなってきたが裸足で砂場遊びをする子どもたちの姿が数人見られた。
- ・一年生の男子が、学校を守ると言って、運動場を休みながら25周走っていた。
- ・服が泥まみれになるほど，泥んこ遊びを数人の男子児童がしていた。

■遊びを通しての子どもたちの変化

変化の様子	自主性・社会性	(主に「社会性」に関する特徴として) ・あまり消極的でない子が「誰か野球をしよう」と呼びかけて仲間が集まり野球が始まった。 ・呼びかけた子どもの顔が生き生きしていた。 ・普段言葉をあまり発しない子(場面緘黙)が1人遊んでいたが，だんだんと楽しくなって，遊びながら声を発し，表情豊かになっていった。 ・砂場が水道・倉庫より遠い場所にあるが，子どもたちが協力して，たらいで水運びをしていた。 ・中学年の子どもたちがドッジボールをはじめ，1年生にも呼びかけ，一緒に遊んでいた。 ・ボールを投げるのが速い子も1年生には少しゆっくり投げる等の配慮も見られた。 ・子どもたちの中から，「みんなで遊びたい。」という声上がるようになり，自然に異学年同士も集まり遊ぶようになってきて，一人遊びや何をしていいかわからない子どもは少なくなってきた。 ・たくさんの遊びを通して，徐々に子ども達それぞれが自分の好きな遊びを定着させていった。 ・お互いの名前や顔を覚えた頃，自然と声をかけ合って，ドッジボールや野球をする姿が見られた。
	集中力	・壁打ちのテニスをしていた1年生男子児童は，最初は，中々うまくラケットにボールを当てることができなかったが，ワンバウンドしたボールを段々とラケットに当たるようになり，何度も何度も練習していた。 ・砂場で，6人の子どもたちと1人の補助員で，落とし穴を作っていた。 ・砂をかぶせるために新聞紙を利用し，1時間以上夢中であそんでいた。
	創造性	・ドッジビーを肋木の間を通すと，5万点になるような得点競争を2人組でしていた。 ・箱ティッシュの空き箱とラップの芯を組み合わせ，それに輪ゴムを数本つなぎギターをつくり弾いて遊んでいた。 ・初めのうちは何をして遊んだらいいか分からなかった子どもたちが自分たちで遊びを考案し「名前のない遊び」を楽しんでいる。 ・2年生がラインなしでサッカーをして遊んでいた。1年生も真似をしてサッカーをしていた。

平成30年度 わいわい広場と留守家庭子ども会との連携に関する調査結果

(資料8)

【留守家庭子ども会との連携について】

質問	回答		回答数	割合	前年度	増減
遊び方について	ア	エリアを分けることなく一緒に遊んでよいとしている	33.6%	59.2%	52.6%	+6.6
	イ	エリアを分けているが一緒に遊んでよいとしている	6.4%			
	ウ	一緒に遊んでよいとしているが、一部一緒に遊べない制限がある	19.2%			
	エ	一緒に遊ばせていない	40.8%		47.4%	△6.6
遊具の共有について	ア	両方の遊具を共有している	11.2%	45.6%	40.4%	+5.2
	イ	わいわいの遊具のみ共有している	32.8%			
	ウ	留守家庭子ども会の遊具のみを共有している	1.6%			
	エ	全く共有していない	54.4%		59.6%	△5.2
企画事業への参加について	参加を呼びかけた(呼びかける予定)		71.2%		59.6%	+11.2
	企画事業の内容等に応じて参加を呼びかけた(呼びかける予定)		13.6%		14.0%	
	参加を呼びかけていない(呼びかけない予定)		8.8%		16.7%	△7.9
	企画事業を行う予定がない		6.4%		8.8%	△2.4
連携について	ア	日常的に情報を共有している	74.4%		 ○イの回数 年に1回：28. 2回：50. 3回：7. 4回：7.	
	イ	定期的に情報交換や協議の機会を設けている	11.2%			
	ウ	双方で遊びのルールを共有している	39.2%			
	エ	双方でスケジュールを共有している	22.4%			
	オ	わいわい広場などのお便りを留守家庭子ども会に渡している	74.4%			
	カ	わいわい先生が留守家庭子ども会の運営委員会に参加している	4.8%			
	キ	わいわい先生が留守家庭子ども会の補助支援員として活動している	16.8%			
	ク	補助員が留守家庭子ども会の補助支援員として活動している	12.8%			
	ケ	その他	13.6%			

【上記項目の調査結果について】

○「一緒に遊んでよい」としている回答が前回調査より6.6ポイント増えている。(前回52.6%→今回59.2%)

○遊具を両方もしくは一方を「共有している」という回答が前回調査より5.2ポイント増えている。(前回40.4%→今回45.6%)

○企画事業について、「参加を呼びかけた」という回答が前回調査より11.6ポイント増えている。(前回71.2%→今回82.8%)

○連携については、大半のわいわい広場で日常的に情報を共有しているほか、定期的に協議の機会を設けたり、双方でスケジュールを共有したり、わいわい先生が留守家庭子ども会の運営委員会に参加したりなどと、様々な連携が進んでいる。

【遊びのルールについて】

学校	確認状況	ア	毎年確認している	24.0%
		イ	必要に応じて確認している(定期的には確認していない)	67.2%
		ウ	過去、一度だけ確認したことがある	5.6%
		エ	確認したことがない	3.2%
	調整状況	ア	学校の遊びのルールの範囲内でわいわい広場の遊びのルールを設定している	86.4%
		イ	学校の了解を得たうえで学校の遊びのルールとは違う遊びのルールを一部設定している	4.0%
		ウ	学校の了解を得ずに学校の遊びのルールとは違う遊びのルールを一部設定している	2.4%
		エ	何も整理(調整)していない	7.2%
留守家庭 子ども会 (一緒に遊んでいる 実施校のみ)	確認状況	ア	毎年確認している	18.9%
		イ	必要に応じて確認している(定期的には確認していない)	67.6%
		ウ	過去、一度だけ確認したことがある	9.5%
		エ	確認したことがない	4.0%
	調整状況	ア	留守家庭子ども会と協議したうえで原則留守家庭子ども会のルールに合わせている	39.2%
		イ	留守家庭子ども会と協議したうえで原則わいわい広場のルールに合わせている	1.4%
		ウ	留守家庭子ども会と協議したうえでそれぞれのルールで一緒に遊んでいる	32.4%
		エ	留守家庭子ども会と協議したうえで一緒に遊ぶ際の独自ルールを設定している	4.0%
		オ	何も協議せずに、それぞれのルールで一緒に遊んでいる	21.6%
		カ	無回答	1.4%

わいわい広場の普及啓発

わいわい広場や、遊びの大切さ・遊びの効用について、学校・地域関係者・保護者等の理解を深めるために、「新1年生保護者説明会への参加」や「登録外児童を対象としたわいわい広場の開催」、「わいわいだよりの発行」、「学校やPTA、地域の広報誌への掲載」など、各実施校で工夫して様々な普及・啓発活動を行っている。

(1) 保護者・地域に対する普及啓発の取り組みについて

○休日わいわい広場の実施

今年度、各実施校において、年に1回、休日（土・日・祝日）に、「休日わいわい広場」を実施することとしている。

① 目的

平日は広場に来ることが難しい保護者や地域関係者等に、「遊びの大切さや遊びの効用」、「わいわい広場」について、理解を深めてもらう。

② 対象者

当該小学校区に居住する児童（登録外児童を含む）、乳幼児（保護者同伴）など

③ 内容

通常のわいわい広場の実施（プレイワーカー派遣や地域行事との連携もあり）

～実施状況（事例）～

○土日の昼間校庭開放事業の空間を活用した実施

- ・のんびりした空間の中で子どもたちがのびのびと好きなことをしている。
- ・児童に同行して一緒に遊ぶ保護者の姿や、乳幼児を連れた保護者の姿もあった。
- ・昼間校庭開放指導員がわいわい広場の趣旨を知る機会になる。

○土曜参観後の実施（保護者懇談会中から実施）

- ・参加児童が多い。
- ・お父さんの姿が多くあった。
- ・参観と一緒に来た乳幼児の姿も多くみられた。

(2) 学校に対する普及啓発の取り組みについて

年度当初にコーディネーターより各学校長へ、わいわい広場や昼間校庭開放事業の概要・遊びの重要性等を説明し、協力依頼を実施。

※遊びの効用について（学校依頼文より抜粋）

「遊び」は、自主性、社会性、協調性、創造性、体力の向上等、児童の心身の成長にとって重要な活動です。わいわい広場は、遊びを通して子どもたちの健全な成長を支援していく事業です。ぜひ、教職員等学校関係者のみなさまにも遊びの大切さを知っていただき、お時間がある時に、わいわい広場に顔を出していただけるととても嬉しいです。

派遣型わいわい広場の実施について

わいわい広場は、全校区展開を目指して実施校を拡大しており、今年度は11校での新規開設を目指している。

また、今年度は、わいわい広場未実施校について、「派遣型わいわい広場」として、年に1～2回単発でわいわい広場を実施する予定としている。

派遣型わいわい広場の実施概要	
目的	わいわい広場未実施校区について、派遣型わいわい広場での体験を通して、遊びの引き出しを増やし、日ごろの遊びにつなげ、主体性やコミュニケーション力、体力、創造性の向上など、児童の健全育成を図る。
実施 頻度	年に1～2回程度
場所	校庭，体育館等
スタッフ	遊びの支援者 数名派遣 その他 地域の方 など
遊び	自由遊び

今年度実施校	
能古小学校	7月2日（火）
その他，舞鶴小学校，小呂小学校，玄界小学校，志賀島小学校等で実施予定	